

牛久：学校周辺に見る自然

第5号

ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小学校）

2011年4月27日発行

＜ 水辺公園の春 ～ ④ シソ科の仲間 ＞

4/20(水)、ひたち野うしく小4年生の水辺公園、春の生き物観察。今回は、シソ科の仲間。この仲間は、科名のシソの他に、バジル、ミント、セージ、ローズマリー、タイム、レモンバームなどがあります。そう、^{かお}香りが強くハーブとして利用されているものも多いですね。その他、^{くま}茎が四角で、葉が対に出て十文字を描くように並んだり、花の形がくちびる型など共通の特徴をもっています。水辺公園で目についたのは次の3種でした。同じ香りなのに、よい香りと感じた人とちょっと嫌な臭いと感じた人がいたのも面白いですね。^{にお}匂いや味などの^{かんかく}感覚は一人ひとり、少しずつ違うようです。

(1) ホトケノザ（シソ科，オドリコソウ属）



第3号でも少しふれましたが、春の七草の「ホトケノザ」はキク科のコオニタビラコ。今ではホトケノザといえば、皆さんこの花を思い浮かべますね。春や夏に発芽するものもありますが、大部分は秋に発芽して冬を越し、春に急に大きく成長して花を咲かせます。よく観察すると、いろいろ不思議なことに気がつきます。下の方の葉には柄があるのに、上の方の葉には柄がありません。また、きれいに開く花の他に閉じたまま終わってしまう花（閉鎖花）もあり、どちらにも種子ができます。どちらの花が多いか、数えてみましょう。ホトケノザは、花粉を運ぶ昆虫たちがまだ活発でない冬～早春でも閉鎖花の中で自分の花粉で種子をつくれるし、暖かくなってハチなどが盛んに蜜を吸い、花粉を運んでくれる頃には他の花からの花粉を受けて、多様な子孫を残すことができるのです。すごいですね。

(2) ヒメオドリコソウ（シソ科，オドリコソウ属）



この植物も秋に発芽して越冬し、春に花を咲かせますが、すでに冬の間に結構成長しているようです。オドリコソウに似て小さいことからついた名ですが、ヨーロッパ原産の帰化植物で、花もあまり踊り子っぽく見えませんね。ホトケノザ同様、閉鎖花もありますが、数は少ないように思えます。どうでしょう？ホトケノザやヒメオドリコソウの種子には「エライオソーム」というアリの好きな物質がついていて、種子を運んでもらい分布を広げるのに役立っているそうです。これまた、すごいですね。

(3) ジュウニヒトエ（シソ科，キランソウ属）



よく下草の刈られた明るい林内で見られます。花が何段にも重なって咲くようすを十二単の着物に例えた名だそうで、世界中で日本にしかありません（こういうのを「固有種」といいます。）。林の手入れが行き届かなくなったり、盗掘されたりして少しずつ数が減ってきているようです。「やはり野に置け蓮華草」ということわざを知っていますか？辞書で調べてみましょう。【理科支援員 宮内】